

(研究部門)

「主体的に学習に取り組み、話し合う活動を通して考えを深める子どもの育成」

— 算数科の学習を通して —

大阪市立南港桜小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、「自分も人も大切にする学びあいの場で、自ら考え、正しく判断し、進んで行動することに挑戦する生き抜く力をもった人を育む」を教育目標に掲げ、日々の教育活動を進めている。児童の多くは、落ち着いて学習に取り組んだり、当番や係活動、委員会などの活動にも真面目に取り組んだりすることができている。

学力面では、学力経年調査の結果から、正答率の対全国比を3ポイント上回っているという結果が出ており、学力は比較的高いと考えられる。しかし、学習に対して受け身である児童が多く、学習の定着率が高い児童とそうではない児童の二極化も見られる。また、数年間のコロナ禍の影響により、考えを伝え合うということを苦手としていることも、今後の教育活動において克服すべき課題であった。

そこで、児童を育成していくためには、

1. 「一人ひとりが主体的に学習に取り組む」という態度
2. 「考えを深める」という目的
3. そのために「話し合う」という手段

の3点が重要であるということに立ち返り、本年度より「主体的に学習に取り組み、話し合う活動を通して考えを深める児童の育成 ～算数科の学習を通して～」という主題を設定した。

## 2. 研究の趣旨

本校では、令和4年度から「子どもの話し合いを深める算数科学習指導の在り方」という主題で研究を進めてきており、令和5年度では、以下のようなアンケートの結果となった。

- ・大阪市教育振興基本計画の年度目標の一つ「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の最も肯定的な「当てはまる」と回答した児童の割合…46パーセント
- ・本校の教育アンケート項目の一つ「学校の授業などで、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っている」の最も肯定的な「当てはまる」と回答した児童の割合…65パーセント

このアンケート結果を受け、上記の理由で研究主題を見直し、算数科の学習を通して、研究主題に迫ることを目指した。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点① 学習への意欲を高めるための工夫

- 具体物や身近な問題を活用し、児童の興味関心を引くような導入を行う。また、前時までの学習を振り返れる工夫を通して、本時の学習内容を理解しやすくする。
- ペアやグループでの相談や協同的な学習、ゲーム性をもたせた活動など、多様な学習活動を通して、児童の主体的な学習を促進し、学習意欲の持続と向上を目指す。

- 児童用端末や学習系パソコンなどの ICT 機器を活用することで、児童の学習意欲を高めたり、学習の理解を助けたりする。

#### 視点② 話し合いの工夫

- 複数の解法が考えられる問題、日常生活と関連付けた問題、児童の興味・関心を引く問題などを提示することで、話し合いへの意欲を高める。
- ペアやグループ、全体での話し合いなど、多様な話し合いの方法を取り入れることで、児童の主体的な参加を促す。
- 発表ボードを活用することで、児童の考えを可視化し、話し合いを活性化する。
- 学年の実態に応じた「話し合いのものさし」を作成し、話し合いの具体的な姿をイメージできるようにし、児童の話し合いへの意識を高める。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 具体物や操作活動を取り入れたり、生活経験や学習内容と関連付けた導入を工夫したりすることで、児童の興味・関心を惹きつけ、学習意欲を高めることができた。
- 掲示物や ICT 機器を活用し、前時までの学習内容をスムーズに復習できるような工夫を行った。
- ペア学習、グループ学習、全体学習といった多様な話し合いの方法を、児童の実態や学習内容に合わせて効果的に使い分けていた。
- 「話し合いのものさし」を学年ごとに作成することで、教師も児童も話し合いの具体的なイメージをもつことができ、話し合いに対する意識を高めることができた。
- 「発表ボード」を活用することで、自分の意見を発表することへの意欲を高め、多様な考え方の比較や検討がしやすくなった。

#### (2) 今後の課題

- 児童が話し合いたくなる、または話し合う必要のあるような問題の提示をしていく。
- 発表ボードの工夫や活用方法の追究をしていく。
- 話し合い活動の素地となる基礎学力の定着を目指す。
- ふりかえり問題などで児童一人ひとりの実態の把握をし、個に応じた支援を探っていく。
- ICT 機器の活用や掲示物により、導入の短縮を図る。
- 教材分析による話し合いが活発に展開されることが期待される単元や場面の選別を続けていく。